

➤ 1:21-26 神さまの嘆き

- 神さまはイスラエルの民が本来あるべき姿からかけ離れてしまっていることを嘆かれる。
 - ✧ V. 21と26「忠実な都」
- 「遊女」のイメージは、この節と23:15-18で使われており、どちらも「回復」のイメージを伝える。
- 「公正」と「義」=神さまの聖なるご性質を表す(cf. 5:16)。本来、神の民はこのような聖さを表す共同体であるが、今は罪深く、しかもそれを何とも思わない状態になってしまっているという。
- それが神さまに背く姿と自分自身に目を向け自分にだけ依り頼む生き方(「強情者」、「盗人」、「賄賂」、「報酬」、他人に対して無関心など、そうした態度に人の本心・本当の状態が現れる)として表れる。
 - ✧ 「みなしご」、「やもめ」=聖書は特にこうした人たちに対して深い関心を示す(出22:22; 申14:29; 16:11-14)。主はご自身の民がご自身のような愛と憐れみを示すことを望まれる(申10:18; 詩10:4; 68:5)。
- 主の姿とは(24節)「万軍の主」(49:26; 60:16)→ご自身の民を統べ治め導かれるお方。
 - ✧ 人の心をも変えることのできる大きな力である。そしてその力は人々を悔い改めへと導く。
 - ✧ 主に背くものは主の敵であると明言する。
- そのような者たちに対して神さまの「手」は向けられる。敵を征服するような力の手(詩81:14)。
 - ✧ しかし、ここでは「回復」を意味する「手」のわざ(cf. エレミヤ6:9; エゼキエル38:12; アモス1:8; ゼカリヤ13:7)。
- 主はこのように怒りと裁きの手を向けられるが、それさえも憐れみ、恵みのわざである(60:10)。こうして清められる。不純物を取り除かれる。このプロセスがあってはじめて「回復」へと向けられる(26節)。

➤ 1:27-31 神さまの説明

- これらの言葉を語り伝えるのは、神さまご自身が私たちが贖われるということを示すためである(27-28節)。11:1, 10-16(ダビデの子孫を通して) & 55:3(苦しむ主のしもべとして)。
- 主ご自身のこのわざに対して求められるのが私たちのレスポンスである。=悔い改め。
- 主が贖われる時、主は単に罪を見過ごしたり、多めに見たりするのではない。ご自身の聖なる命令の要求をご自身が満たすために全てを支払われる。この贖いのわざが神さまによって備えられる。それがイエス・キリストの十字架の死と復活の出来事である。

➤ キリスト者の姿:

- 罪赦された者として、キリストによって神の子とされ、キリストの花嫁(第二コリント11:1-3; エペソ5:22-33)として、いつの日か神さまと共に永遠に生きることが約束されているもの(黙19:6-9; 21:2, 9-11)。

➤ 聖書を通して教えられること:(1)私がいかに弱く、でも強情で、不完全で愚かな存在であるかということ。(2)そのままの私を深く愛し、贖い、赦し、ご自身の家族として受け入れてくださる神さまがおられ、私に語り続けてくださっているということ。

➤ 神さまご自身が私たちの問題の唯一なる解決を与えてくださった。

- 詩篇19:14「主よ わが岩 わが贖い主よ。」(詩篇30:5「まことに御怒りは束の間いのちは恩寵のうちにあ。夕暮れには涙が宿っても朝明けには喜びの叫びがある。)」私たちの神さまはこのようなお方である。

➤ 結語:さて、私たちは今どうだろうか。罪の最中であって道を見失っているだろうか。聖さから遠のいて、神さまに背いていないだろうか。自らを「強い者」と思い、自分自身のわざや成し遂げたことに頼っていないか。もしそうだとしたら知っておきたい。私たちには贖い主がおられる。私の心奥深くにある本当の問題をこのお方にお委ねしよう。主イエス・キリストこそが私たちの贖い主、私たちの唯一の解決であるのだから。